

○提案内容

(1)実現したい都市のビジョン

関西文化学術研究都市建設促進法(昭和62年法律第72号)が掲げる「文化、学術及び研究の中心となるべき都市を建設し、我が国及び世界の文化等の発展並びに国民経済の発展に資する」という目的の達成に向け、文化、学術、研究の中心となる都市としての機能の集積や環境整備が進んできた現状を踏まえつつ、次のような都市の姿を目指す。

①世界の未来像を提示する

・「未来社会がいかにあるべきか」「科学技術を通じてどのような未来社会づくりに貢献できるか」といった世界の未来像を提示できる都市を目指す。

②科学技術のイノベーションの創造拠点となる

・研究開発のみに止まらず、その最上流となる教育・研究者育成から最下流の製品化・市場展開までを幅広く担う科学技術イノベーションの総合的な創造拠点をを目指す。

③「ナレッジ・リンク」の中核となる

・関西の中核的な科学技術イノベーション拠点として新たな価値創造を世界に発信していく

④科学技術と生活・文化が融合した未来の社会を先導する

・新たな科学技術の活用が飛躍的に広がると見込まれるなかで、社会実証事業などで得られた蓄積を活用し、生活の質を高めることができ、真の豊かさや文化的価値を創造することのできる都市を目指す。

⑤安全・安心で高質な都市環境を備える

・これまで以上に国際化が進展していくと見込まれるなか、安心・安全な都市環境はもとより、周辺の自然環境や文化歴史を暮らしの中で享受でき、快適で、利便性が高く、外国人も暮らしやすい生活環境等、質の高い都市環境を備えることで、人を惹きつけ、人が暮らし続けられる持続可能性を有する都市の実現を目指す。

(「新たな都市創造プラン」(平成28年3月策定)より)

(2)新技術の導入により解決したい都市の課題

※課題については、別紙3の(ア)~(シ)の課題分野への対応を記載ください(複数ある場合は、課題ごとに対応を記載ください)

| 解決する課題のイメージ | 課題の分類 |
|--|----------------------|
| (1)住民、研究機関、企業、行政等の交流・連携や高齢者等の移動をサポートする都市モビリティの向上 ①モビリティの向上 ア)クラスター内(立地施設間含む) イ)クラスター間 ウ)クラスターと最寄り駅間 エ)高齢者等の交通弱者 ②歩きたくなるまちづくりの創出 ア)駅前・センターゾーン等の商業集積 ③コミュニティバスのコスト削減 | (ア)交通・モビリティ (コ)物流 |
| (2)高齢化する地域社会への対応 ①高齢者の移動支援 ②高齢者の社会参加の促進 ③独居高齢者対策 ④健康寿命の延伸 | (カ)健康・医療 |
| (3)SDGsやパリ協定を踏まえた持続可能な都市づくり ①CO2の排出削減 ②エネルギーの効率的な利用 ③循環型社会の形成 | (イ)エネルギー (ク)環境 |
| (4)安心・安全な都市の形成 ①児童の見守り体制の維持 ②高齢者の孤独死の防止 ③公共空間での防犯対策 ④防災情報等の円滑な伝達 | (ウ)防災 (ケ)セキュリティ |

(3)具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)

(1)住民、研究機関、企業、行政等の交流・連携や高齢者等の移動をサポートする都市モビリティの向上
①MaaS ②スマートライト、デジタルサイネージ等 ③スローモビリティ、自動運転等 ④カーシェア、自転車シェア ⑤センシング技術による人流分析 ⑥AIを活用した都市活動の解析・予測等 ⑦ドローン配送 ⑧追尾ロボット等による配送支援 ⑨スマート宅配ボックス、自動配送システム ⑩キャッシュレス決済 ⑪IoT物流 ⑫メガ物流拠点と地域物流をつなぐシステム

(2)高齢化する地域社会への対応

①AIスピーカー ②対話ロボット ③健康情報自動測定システム ④医療・投薬・健康指導を統合した支援システム ⑤防犯・健康・省エネ等の多面的な機能を有するスマートハウス

(3)SDGsやパリ協定を踏まえた持続可能な都市づくり

①太陽光発電システム ②蓄電池 ③急速充電器 ④水素ステーション ⑤水素電力貯蔵 ⑥ZEB(ネットゼロエネルギービル)、ZEH(ネットゼロエネルギー住宅) ⑦防犯・健康・省エネ等の多面的な機能を有するスマートハウス(再掲) ⑧廃棄物発生量のセンサー把握とそれに基づく効率的な収集システム

(4)安心・安全な都市の形成

①防犯・健康・省エネ等の多面的な機能を有するスマートハウス(再掲) ②防犯カメラ内蔵スマートライト ③デジタルサイネージ ④センサー等による行動情報の把握システム ⑤AI等による不審者情報システム ⑥自動翻訳システム

(4)解決の方向性(イメージでも可)

別紙に記載

(5)その他

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

| 部局名 | 担当者 | 連絡先(電話) | 連絡先(メール) |
|------------------------|---------------------|-----------------|--|
| 商工労働観光部 文化学術研究都市推進課 | 景観・整備担当 畑中智博 副課長 | 075-414-5196(直) | t-hatanaka03@pref.kyoto.lg.jp |

(4) 解決の方向性(イメージでも可)

(1) 住民・研究機関・企業・行政等の交流・連携や高齢者等の移動をサポートする都市モビリティの向上

① 新たな地区内交通体系の構築

- ア) 新たな地区内交通手段の導入(地区内5キロ圏内の新交通)
- イ) 路線バス、タクシー、シェアサイクル、カーシェアリング等の融合した交通システムの構築
- ウ) にぎわい・交流を創出する歩行空間の整備
- エ) センターゾーンに交通ターミナル機能の整備

② ニュータウンの高齢化に対応したQOL(生活の質)の向上

- ア) 買い物を運ぶ自動追尾ロボット(カート)やドローンによる配達サービス
- イ) 自動運転車等による外出支援
- ウ) AIを活用した情報センターでの行政窓口のワンストップ化
- エ) キャッシュレス決済の導入

③ 「まちの拠点」と「学研の拠点」を結ぶ都市軸の強化

- ア) 歩行者、自転車等による快適な回廊の創出
- イ) 新たな地区内交通手段の導入(地区内5キロ圏内の新交通)(再掲)
- ウ) 路線バス、タクシー、シェアサイクル、カーシェアリング等の融合した交通システムの構築(再掲)
- エ) キャッシュレス決済の導入(再掲)

④ 研究活動などを支援する移動手段の強化

- ア) 会議参加登録と利便性の高い交通手段確保を組み合わせた予約システムの構築
- イ) ライドシェアシステムの導入による新たな移動手段の確保

(2) 高齢化する地域社会への対応

① 高齢者等の日常生活の支援

- ア) AI、IoT等を活用した生活支援サービスで、孤独化の解消や生活支援を実施
- イ) 熱電需給データと生活データ(温室度、戸開閉情報等)を組み合わせた防犯・見守り(熱中症、安否確認等)システムによる安全で快適な居住環境の創出(再掲)

② 健康寿命延伸支援

- ア) センシング技術で心拍、運動量、睡眠等を自動計測し、生体情報から健康指導や生活改善をサポート

③ 医療サポートの充実

- ア) 遠隔診療、薬等の自動配送、服薬管理、健康指導などの支援システムの構築

(3) SDGsやパリ協定を踏まえた持続可能な都市づくり

① 持続可能な都市の形成

- ア) 再生可能エネルギー等を活用して、都市全体としての省エネ、快適な都市環境を創出
- イ) エネルギー消費の可視化や統合管理による省エネシステムの確立
- ウ) 自立型水素エネルギー供給システムによる災害時における営業継続・帰宅困難者支援等(スーパーマーケット、コンビニ等)
- エ) 効率的に収集・処理する静脈物流高度化システム
- オ) 熱電需給データと生活データ(温湿度、戸開閉情報等)を組み合わせた防犯・見守り(熱中症、安否確認等)システムによる安全で快適な居住環境の創出(再掲)

(4) 安心・安全な都市の形成

① 安心・安全な都市の形成

- ア) 児童や高齢者の行動をセンサー等で把握し、異常事態の早期発見を図るとともに、AI等の活用による不審者の発見や犯罪可能性の解析を行い、効率的な見守り活動で安全な都市を構築
- イ) 高齢者の行動解析により、健康管理や孤独死対策を実施

② 多様な研究者、来街者への防災・危機管理情報の伝達と誘導

- ア) デジタルサイネージ等による多言語防災情報等の提供